

第5章 本科卒業生に対する社会的評価

5.1 はじめに

本章では、企業に対するアンケート調査結果と、平成24年度に実施した前回調査との比較から、企業等（社会）の本科卒業生に対する社会的評価に関する考察を行った。

アンケートは、999箇所を送付し、253箇所（回答率25.3%）（前回238社（24.3%））から回答が得られた。回答のあった企業等の徳山高専本科卒業生の採用実績（1名以上）は35.8%（前回42.4%）であり、前回よりも6.6%低下していることが特徴的である。これは、本校からの採用実績がないにもかかわらず、アンケートに御協力頂いたということである。また、他高専本科卒業生の採用実績については68.9%（前回69.2%）であり、0.3%減ではあるが、ほぼ同程度となっている。なお、本科卒業生の採用実績に関する質問について、未回答とした企業は4.7%（前回6.6%）である。

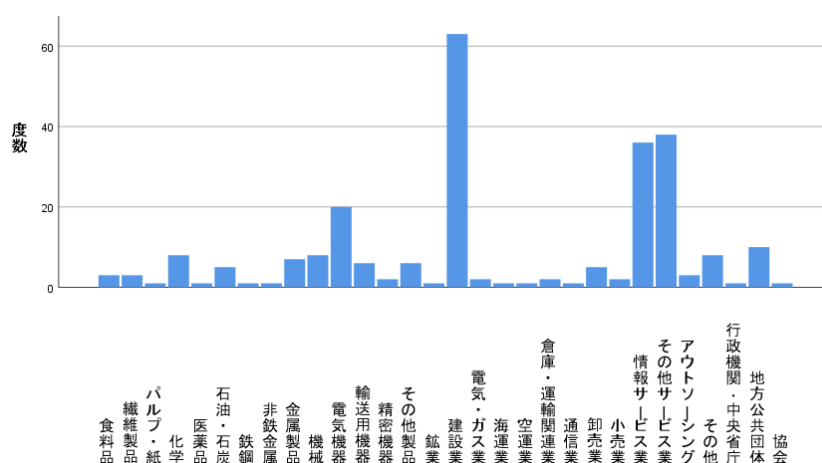


図5-1 【企業0】アンケート回答企業の業種別企業数

図5-1【企業0】にアンケート回答企業の業種別企業数を示す。回答割合の高い業種（建設業、情報サービス業、その他サービス業）については前回と変わらない。全体的に、土木建築・機械電気・情報電子の各分野に直結する業種の企業からの回答割合が全体的に高いように見える。それ以外の分野としては電気機器分野からの回答割合が多いように思われる。

5.2 本科卒業生に対する社会的評価

(1) 自由記述の内容

まずアンケートの自由記述欄（【企業14】、【企業15】など）に目を通すと、意見が非常に多く、学校に対する期待と要望がますます高まっていると感じられる。また、その内容も多岐にわたっており、前回と同様、全体としては高い評価を受けているように感じる。

(2) 中途退職者について

【企業 2 - 1】

中途退職者数 0 名と回答した企業は 48.4%であり、前回 (60.8%) より 12.4%減少して、過半数を割っている。逆に 1 名以上の退職者がいると回答した企業の割合は 44.0%と前回 (39.2%) よりも 5.2%増加した。その理由として、結婚や出産または転職の理由が挙げられているが、顕著な理由として精神面における体調不良等が挙げられる。全体として 10 年以内での退職が多く、20 代での退職や転職は今後も増加していくことが予想される。

(3) 勤務評価について

【企業 3 - 1】

徳山高専本科卒業生の勤務成績について「非常に満足」または「満足」と回答した企業の割合は 81.1%であり、前回 (70%) よりも 10.1%増加している。このことより、多くの企業は高専の本科卒業生を高く評価していると言える。一方で、「非常に不満」または「不満」と答えた企業は 3.2%であり、前回 (1%) よりも 2.2%増加しているものの、全体としては非常に良い評価を得ていると言える。コメント欄には、活躍面が多く記載されており、マイナス印象のコメントは、あまり見られない。

(4) 高専制度について

【企業 4】

「本校の複合教育」についての評価では、本校卒業生を採用した企業の 80.7% (前回 78%) が「適切」と評価しており、2.7%ではあるが複合教育の有効性が認識されている割合が向上した。その他の回答割合では、専門に特化させた教育が良いが 11.0%とより多くの分野を複合させた方が良いが 8.3%と、若干専門に特化させた教育が良いという結果になった。就職先によって求められる能力が異なるため一概には言えないが、概ね複合教育に関する肯定的な意見が見られる。

【企業 5 - 1】

「本校の教育目標」に見合う実力を本科卒業生が身に着けているかを、採用企業側に問う質問である。度数が高い回答に注目すると、複合分野の基礎となる基本的素養を身につける、情報技術をベースに、実体験を通して表現力を身につける、自主性と自立性を養う、複合分野にわたる知識を有機的に結びつける設計能力を身につける、課題を把握し解決する能力を身につけ、感性、創造性を養う項目においては、5 段階における 4 が最も多く、満足に近い評価が得られている。しかしながら、前回に引き続いて項目 2 (国際理解を深め、技術者としての倫理観とコミュニケーション能力を養う) が 5 段階における 3 が最も多い。前回の調査と比較すると全体としては向上しており、5 段階における 4 の評価も二番目に多いため、改善されていると言えるが、全体としてはまだ評価が低いため、引き続き重要視すべき問題であると考えられる。上記でも述べたが今回の回答度数は、評価 4 が圧倒的に高いため、全体的には本校の教育目標に見合う実力を本科卒業生が、ある程度身に着けていると考えることが出来る。これは、高専の特徴である実験実習 (実体験) 重視の教

育の方向性が企業により一定の評価を得ていると言える。しかしながら、コミュニケーション能力の向上等、仕事を遂行していく上で必要な能力の向上も今後の課題である。

(5) 本科卒業生の英語力について

【企業 6-1】

本科卒業生の入社時点での英語力については「非常に満足」または「満足」と回答している企業はと未だ低く、「非常に不満」または「不満」と回答している企業も低い。本質問に関しては「普通」が7割程度であり、本科卒業生に対して可もなく不可もないという様子である。

(6) 大学生との比較について

【企業 7-1】

高専本科卒業生全般について「大学生と比較した場合すぐれている点を選ぶ」質問で回答の多かった項目は、「専門知識」「責任感」「協調性」の三項目である。これらは、前回の調査結果と同様な項目であり、若年から実践的な専門教育を受け、20歳で社会に出る高専生の特徴が現れた結果と考えられる。さらに、「コミュニケーションスキル」が上位から四項目目に挙げられた。これは、大学生と比較してという項目であり、一概に言えることではないが、大学生もコミュニケーション能力が低下していることも一因として考えられるものの、大学生よりも優れていると言える。その他、「主体性、自律性」、「工学一般基礎」、「人間性」に関しても良い評価が得られた。

(7) 今後の採用予定について

【企業 12-1】

高専本科卒業生全般について「今後の採用」を質問した。「採用したい 91% (前回 74%)」であり、前回の調査よりも 17%も向上した。また、「採用したくない」は 0%であり、企業によける採用意欲が一気に向上したと言える。また、企業によっては大学生よりも高専生を積極的に採用しようとする声も聞こえてきている。

【企業 12-3】

「採用したい場合の職種」については、前回の調査結果と同様に「設計」と「施工管理」が最も多く、続いて「システムエンジニア」となった。これらの結果は、各学科に期待されている職種であると思われる。さらに、「研究開発」も多く、本科卒業生を設計や研究開発といった重要なポストに就かせる傾向が続いていると言える。

【企業 8】、【企業 9】、【企業 10】、【企業 11】については、今回も本科と専攻科の区別をしないでアンケート調査しているので、ここでは述べていない。

5. 3 本章のまとめ

企業に対するアンケート結果から、「本科卒業生に対する社会的評価」に関して平成 24 年度に実施した前回調査との比較を中心に考察を行った。その結果、本科卒業生の多くが

それぞれの企業で高い評価を受けていることが分かった。また、多くの企業が本科卒業生の採用に対して積極的であり、前回調査よりもさらに、期待と要望が高まっていると言える。特に、地元企業から積極的に採用したいという意見が多かった。これからも、これらの期待に応えるべく、優秀な人材を育てていく必要があることを再認識した。

「本校の教育目標」の項目に対する回答は、ほとんどの項目で、5段階における4の満足に近い評価が得られていた。この結果より、本科卒業生に対して、おおむね満足していると考えられる。しかしながら、「国際理解を深め、技術者としての倫理観とコミュニケーション能力を養う」項目のみが5段階における3の評価であった。前回同様、評価の低かった項目であるため、今後も注視していく必要がある。

懸念される項目としては、退職者の理由について、体調不良が挙げられるようになったことや、自由記述である質問14と質問15においては、「積極性」や「挑戦」の文字が多くみられること等である。今回のアンケート結果より、社会からは専門知識だけでなく、様々なことに興味を持ち挑戦し、コミュニケーション能力を養って欲しいという要望が多く述べられていることをふまえ、これからの多様化する社会のニーズや技術的課題に対して、積極的に挑戦し、広い視野で対応できるコミュニケーション能力の高い人材の育成がますます望まれていると言える。

(担当：桑嶋)